



●歌舞伎の定式幕

歌舞伎の定式幕（じょうしきまく）の3色と言えば、黒・柿色・萌黄と皆さんお答えになるでしょうが、江戸時代には、座によって色の組み合わせが異なりました。

座とは歌舞伎の興行を許された芝居小屋のことを指します。

江戸時代には幕府公認で4座ありましたが（後に山村座は廃座）、残りの3座の定式幕の組み合わせは、以下となります。

中村座は黒・白・柿色、市村座は黒・萌葱・柿色、森田座（守田座）は黒・柿色・萌葱です。

歌舞伎は一時期衰退し、現在、歌舞伎は松竹が興行界を統一し、森田座の定式幕の配色を商標登録しています。

珍しい配色である白を含む中村座の定式幕は、平成中村座の公演で見ることができます。

（幹事：昆野照美）



●日本の伝統的な色名・浅葱色

浅葱は若い葱の葉の色を指し、「葱」の音読みの「き」は連濁で「ぎ」になる。浅黄色は薄い黄色で別色。

浅葱色は源氏物語にも使われており、枕草子にも「浅葱のかたびらどもぞすかし給える」とある。

平安時代の「浅葱のかさねの色目」は、表裏共に薄藍とされており、浅葱色の織色は経黄・緯青である。

また、衣服の色を定めた位色では浅葱色は六位の袍の色とされている。

浅葱色の変相色には水浅葱、花浅葱、花色、錆浅葱などがあり、古典落語の演目に「花色木綿」がある。

歌舞伎の本幕の後に吊るし、舞台を隠したり転換する時の浅葱幕として使われたり、夜を表す黒幕に対して昼を表す幕の色が浅葱色である。

多くの江戸勤番の田舎出の無粋な武士が、紺色の着物に浅葱木綿の裏地をつけたことから「浅葱裏」は「野暮な人間」の代名詞にもなった。紺屋の普及によって、藍染は薄い水色から黒に近い色まで出せ、庶民の最も一般的な日本の衣類の色となって行った。

（永田泰弘）

●大辞典ひろい読み 90 一こ

黒土：こくど。チェルノーゼム。黒色土。

黒陶：こくとう。中国新石器時代、竜山文化期に盛行した黒色土器。ろくろで成形し、表面を研磨して光沢を出したもの。

黒頭：こくとう。髪の毛の黒い頭。年の若い人。

黒肉：こくにく。黒色の印肉。くろにく。

黒白：こくはく。くろしろ。

黒髪：こくはつ。黒い髪の毛。くろかみ。

黒斑：こくはん。黒い斑点。

黒飯：こくはん。ナンテンの葉で黒く染めた飯。禅宗で四月八日の釈迦の降誕会に供える。

黒板：チョークで文字や図が書ける様に黒または緑の塗料を塗った板。

黒皮症：こくひしょう。顔面などの皮膚が色素沈着のために黒ずんで褐色や紫灰色などを呈する症状。

黒白：こくびやく。黒い色と白い色。黒いものと白いもの。善と悪。正と邪。是と非。くろしろ。

黒表：こくひょう。要注意人物・危険人物の住所・氏名などを記した帳簿。ブラックリスト。

黒風：砂塵を巻き上げ、空を暗くするようなつむじ風。黒風白雨。

＊大辞泉：小学館発行国語辞典（永田泰弘）